

建築を よむ

話題の新国立競技場のような大規模建築から、アイデアいっぱいの狭小住宅まで、生活の身近にある建築。家を建てる予定がなくても、間取りを見たり、どんな家に住みたいか考えるのは楽しいものです。

建築家が思い描く家やまちづくりについて、気軽に読めるエッセイや、有名建築をめぐる物語など、読む建築本を紹介します。



ふしぎなおうち

◇『タンポポ・ハウスのできるまで』藤森照信／著 朝日新聞社 1999

建築史が専門の著者が、建築緑化に興味を持ったことがきっかけで、屋根にタンポポが咲く自宅を造ることに。他にも色々こだわりのある家が完成。なぜタンポポなのかは、これを読めばわかります。

◆『ありえない家』細野透／著 日本経済新聞社 2004

2000年頃からブームとなった、狭小住宅。この本で紹介している3種の狭小住宅がいかに「ありえない家」なのか。その秘密を解説。

◇『伝統技法で茅葺き小屋を建ててみた』原田紀子／著 農文協 2008

前作『木の家は三百年』で宮大工から伝統技法の素晴らしさを教わった著者が、実際に自分で建ててみたのはわずか3坪の茅葺き小屋。伝統建築にかかわる職人たちの話も興味深い。

◆『こんな家に住んだ』こぐれひでこ／絵と文 立風書房 1996

気持ちのいい住まいを求めて、引っ越しを繰り返すこと16回。埼玉の農村からパリにまで広がった居住録。それぞれの家の間取りが楽しい、イラストいっぱいの一冊。

◇『夢のまたゆめハウス』石山修武／著 筑摩書房 1998

実際にありそうだけどなさそうな建物たち。建築家の著者が想像した不思議な建物のSFっぽい短編集。こんな家があったら、きっと楽しいはず。



たてもものまちとひと

◆『光の教会』平松剛／著 建築資料研究社 2000

建築家安藤忠雄が建てた茨木春日丘教会。礼拝堂の別名は「光の教会」として世界的に有名になった。資金も少ないなかで、どのように名建築を生み出したのか。教会ができるまでの過程、工事にかかわった人々など丁寧に描く。第32回大宅壮一ノンフィクション賞受賞作。

◇『まち建築』日本建築学会／編 彰国社 2014

建築のいとなみを「使いこなす」「終える」「構想する」「工事する」「見つめる」の5つのサイクルとしてとらえ、それぞれのまちづくりを事例と共に紹介。

◆『高層建築物の世界史』大澤昭彦／著 講談社 2015

歴史を通して過去の人々がどのような高層建築物をつくってきたのか。その理由や当時の社会的背景から、高さのもたらす意味までを考える。



けんちくをめぐる

◆『世界の名建築』五十嵐太郎／著 光文社 2004

日本の関西国際空港からロンドン動物園のペンギンプールまで、ジャンルも多彩な名建築が多数。旅する際は建築に注目です。

◇『名建築に泊まる』稲葉なおと／著 新潮社 2002

由緒ある名旅館、名ホテルに宿泊したガイドエッセイ。いくつかすでに閉館してしまった旅館もあるのが残念。週刊誌の連載をまとめたもの。

◇『ぬっとあったものと、ぬっとあるもの』ポーラ文化研究所 1998
高層化した地方庁舎や、屋上広告・回転展望台など、各地にある「ぬっ」と突出したものを、ちょっと懐かしい近代ニッポンの「遺跡」として紹介。

そのほかのおすすめ

- ◇『建築家捜し』磯崎新／著 岩波書店 1996
- ◆『37人の建築家』飯島洋一／著 福武書店 1990
- ◇『月と日本建築』宮元健次／著 光文社 2003
- ◆『奇跡の団地阿佐ヶ谷住宅』三浦展／編著 王国社 2010
- ◇『光と影で見る近代建築』近藤存志／著 KADOKAWA 2015
- ◆『こっそりこっそりまちをかえよう。』三浦丈典／文 彰国社 2012
- ◇『東京建築散歩 24 コース』志村直愛／編 山川出版社 2004
- ◆『近代埼玉の建築探訪』朝日新聞さいたま総局／編 さきたま出版会 2006
- ◇『10 宅論』隈研吾／著 筑摩書房 1990
- ◆『写真な建築』増田彰久／著 白揚社 2003



こちらで紹介した資料は、さいたま市図書館で所蔵しています。すべて貸出ができますので、ご利用ください。貸出中のものは予約もできますので、お問い合わせください。

大宮西部図書館